

「キリストこそ私たちの平和」

1. はじめに

- ・エペソの諸教会への回覧として

テモテが監督としてエペソの諸教会をみていたころ、偽教師問題で教会が分裂する危機にあった。

この文章のテーマはユダヤ人と異邦人の教会の一致ということである（平和）。

- ・パウロは、この箇所、「教会の一致」を「平和」という言葉で説明している。

2. 本文

- ・「あなたがた」ということば（1 1 節など）

・新約聖書でパウロの特徴的な言葉は「兄弟たち」「あなたがた」というような言葉です。この言葉が意味しているのは私たちが知っている「教会」とは違っている。しかしパウロは教会と兄弟姉妹を同じ意味で語っている。

- ・ユダヤ人と異邦人（1 1 節、1 2 節）

・ユダヤ人と異邦人の関係は日本人には理解しがたい。ユダヤ人は「私たちには神が与えた律法がある。異邦人にはない。」従って、差別と見下しが発生する。それが1 5 節の「敵意」を持つという表現となる。

- ・壁・敵意を廃した（1 4 節～1 6 節）

・十字架と復活の意味。

・主イエスは私たちが神から離れている「罪」を負い、贖ってくださったということ。

・和解—神はイエスを通して、人と神とのアンバランスな関係であっても一方的に愛を示された。(BIC CORE VALUES NO8)

・主イエスを信じる者においては壁、敵意は意味がなくなる。義認ではなく新生として生きるから。

- ・平和（1 4 節）

・シャロームと軍事的平和

・ユダヤ的平和と軍事的平和の違いについて。

・人間と神との健全な関係を示し、霊的な面、経済的な面の両方を含み、その健全な関係のとき実現される幸せな状態。(シャローム)

・シャロームは平和、神の義、救いと同じ意味として語られる。

・イエス・キリストにある平和と軍事による平和の違い。

- ・聖霊による一致（1 8 節 2 2 節）と教会づくり（2 0 ~ 2 2 節）

・両者ともに一つの御霊において、父のみもとに近づくことができます。(1 8 節)

3. 終わりに

- ・教会は「平和」という見方。

・今までの教会概念から「分かち合い」「赦しあい」「賜物」「平和」「宣教」の共同体への見方へ

・個人主義的信仰の見直し。(共同体とは何か)